阿弥陀如来坐像　一軀　　両脇侍像　二軀

【所　在　地】薩摩川内市高江町長崎　阿弥陀堂（現長崎公民館）
【種　　別】県指定有形文化財（彫刻）
【指定年月日】昭和 62 年 3 月 16 日

木造阿弥陀如来坐像は，曹洞宗福昌寺の末寺であった高江村の弥陀山長崎寺に古くから伝わったもので，像の高さ 84cm の坐像である。螺髪は小粒に美しく整えられ，額の髪際も一直線であり，顔も衣の襞もおだやかで，藤原期の仏像の特色を備えている。

両脇侍像（観音菩薩立像・勢至菩薩立像）は，高い 髻 （髪の毛を一つにまとめて頭の上でたばねた部分）を結いあげていて，裙などの衣の襞のあつかいは，鎌倉時代初めの写実性から，やや概念的な衣の重なりとなり，ややかたい襞の波形を見せている。表情や体躯からも 13 世紀後半の制作であることが推察され，畿内の仏師の手になるものであろう。

鹿児島県の神仏分離は強力に廃仏毀釈を展開したため，他県に比較して仏教美術品遺品は少ない。それゆえ平安・鎌倉時代の仏像は極めて貴重な文化財である。